

病虫害発生予察指導情報

(ナシ・クワコナカイガラムシ No. 2)

令和5年6月27日
鳥取県病虫害防除所

1. 情報の内容

クワコナカイガラムシ第一世代幼虫のふ化開始は、平年より5日早い6月26日（平年：7月1日）に認められました。昨年、果実被害が多く認められた園では防除を徹底してください。

2. 情報の根拠

(1) クワコナカイガラムシ第一世代幼虫のふ化*開始は、平年より5日早い6月26日（平年：7月1日）に認められた。

(2) 卵のう内のふ化の様子及び今後の気象経過などから、第一世代幼虫のふ化最盛日は、平年に比べて5日早い7月2日頃（平年：7月7日）と見込まれる。

*クワコナカイガラムシ第一世代卵のうからのふ化は、百葉箱内（園試）で観察。卵のうをシャーレ中央に静置し、その周囲に粘着物質を塗布、その粘着物質に捕獲された幼虫数を計数。卵のうは野外で採取。

3. 防除上注意すべき事項

(1) 昨年被害の多かった園では、5～10日間隔で発生状況を確認しながら次の時期を目安に防除を行う。

幼虫ふ化最盛期 7月2日～7月6日

幼虫ふ化終期 7月7日～7月11日

(2) 薬剤はモスピラン顆粒水溶剤4,000倍液、ダイアジノン水和剤34の1,000倍液などを使用し、連用を避けて輪番散布する。

(3) 薬剤の散布にあたっては、クワコナカイガラムシが集合する枝葉の他、枝の切り口、粗皮下などに薬剤が十分かかるようにする。

(4) 農薬の散布にあたっては、農薬の使用基準を遵守する。